

「ベルクハイムへの憧れ、五度(ごたび)。」

20 期 久富 象二

今年も順調に小屋作業を進めることができました。

新道整備は現役諸君のパワーと OB 諸氏の経験と匠とも言える技で、高三郎までもう一步のところまで到達しました。来年春には開通できる見込みです。

作業に参加した現役生も高三郎と伐開作業の魅力を感じつつあるようで、前部長の村居君は「開通の瞬間にはぜひ立ち合いたい。」と意気込み、卒業して就職のため金沢を去る元部長の山路君は「数年後には必ず登りに来る。」と語り思いを残しています。

新道整備はテントや水・食糧を担ぎ上げ2泊3日で行われていますが、3日目に作業を終えた OB 作業隊の皆さんは、戦い終えた戦士は斯くの如くか、と思わせるような充実感を漂わせてダムに帰ってきます。大変お疲れ様です、もう一息です。

小屋の補修作業は柱の補強や根太の補強などが行われ、さらに長生きできそうです。今年は小屋で蛇の抜け殻を2つ発見しました。そのうちの1つは、天井から垂れ下がって最初はタオルかと思ったほど立派な抜け殻でした。蛇にも住み心地のよい小屋なのだと思います。

小屋作業はワングル部員と OB だけではなく、倉谷を愛する人たちに見守られ協力いただいて実施できています。山本さん(以前ボートを出していただいていた山下さんの甥御さん。山下さんは今年の夏、残念ながらお亡くなりになりました。)にはボートに乗せていただき、毎回小屋作業の前には、残雪の量や倉谷川の水量などについて知らせてくれます。また雨量計傍のヘツリを丸太や鎖で補強していただいているおかげで、この難所を通過することができています。先日、ベルクハイム下で長い間小屋掛けをしておられた木挽さんから電話があり、年齢やゲートの鍵のこともあり倉谷に入ることができなくなったけれど、倉谷で知り合った人たちと思い出を語る会を開きたいとのことで、3期の田村さんの様子をたずねてられました。この会が開かれたならきっと楽しい会になることでしょう。

昨年からダムまでの県道(倉谷土清水線)を通行するには、寺津に設置されているゲートの鍵を利用する都度県央土木事務所から借用し、使用後は返却しなければなりません。借用許可の判断手順を示すフロー図があり、私たちは「ゲート内に土地・建物を所有している」→「用水の管理・墓の管理・墓参り・小屋の管理等」で OK です。このようなフロー図に従わなければならないのは甚だ不本意ですが、土木事務所と議論をしても拠って立つ判断基準が異なるので一致点を見出すことは無理であり、まずは金沢市民の水がめである犀川ダムの見学さえ妨げている、遅々として進まない県道工事を問題として、工事の早期完了を促すのが得策かと思います。

60 周年記念総会(来年 9 月 15 日を予定)でごあいさつさせていただきますが、OB 会長として寄稿する「やまざと」巻頭言は今回が最後です。会長を退任しても一 OB として「ベルクハイムへの憧れ」は続きます。今後よろしくお願いします。